

事務事業名		雲南市教育支援センター運営事業		所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育政策課	
総合計画 画体系	政策名	(IV)ふるさとを学び育つまち<教育・文化>		所属G	キャリア教育政策G	課長名	工藤松太郎	
	施策名	(26)学校教育の充実		担当者名	岡紋子	電話番号	0854-40-1074 (内線) 2241	
	目的 対象	児童・生徒	意図	基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。				
	基本事業名	(078)困難を抱える児童生徒への支援の充実		予算科目	会計	款	大事業	大事業名
目的 対象	児童・生徒	意図	個に応じた教育・支援を受ける。				項目	中事業
					015003	中事業	教育推進事業	
					051028	事業名	28おんせんキャンパス運営事業	

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H27 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
不登校の児童生徒の学習の場である「おんせんキャンパス(旧温泉小学校)」において、学習指導員を配置し学習支援を行うなど、施設における学習環境の充実に努める。 なお、質の高い教育の提供に向け、認定NPOへの業務委託方式による運営を図る。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	R元年度実績(R元年度に行った主な活動)	R2年度計画(R2年度に計画する主な活動)			
	② 活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(計画)
	●教育支援センター(現地) 認定NPOへの業務委託(臨床心理士配置)学習支援、体験活動支援、カウンセリング、保護者相談業務、家庭訪問、施設管理					
	●本庁 契約事務、入級申請事務、運営に関する予算執行事務など ※施設運営体制 受託者 5人 雲南市 2人(指導員)					
	●教育支援センター(現地) 業務内容は同左 学校訪問・家庭訪問等のアウトリーチ活動を重点的に行う。					
	●本庁 以上は、左記同様 ※施設運営体制 受託者 5人 雲南市 2人(指導員)					
ア	訪問指導回数	回	224	235	223	223
イ	ワーキング会議	回	24	24	—	—
ウ	学校との支援会議	回	—	—	53	53
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(計画)		
	①不登校児童 ②不登校生徒		ア	不登校児童(小学生)	人	26	25	26	26
			イ	不登校生徒(中学生)	人	29	39	52	52
			ウ	利用者(小中学生) 利用者(高校生)	人	32 (4)	35 (3)	37 (12)	37 (12)
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(計画)		
	個々の実態に合わせた支援により、学校での生活や学びに意欲をもってもらう。最終的には学校復帰を目指す。	ア	登録者(小中学生) 登録者(高校生)	人	22 (0)	20 (0)	18 (3)	18 (3)	
		イ	登録者のうち学校復帰及び進路実現できた割合(翌年度当初)	%	86.4	75.0	70.0	70.0	
		ウ							

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(1年度決算)	事業費	財源内訳	単位	H29年度(決算)	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(計画)
		国庫支出金	千円	10,779	9,669	12,514	13,038
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円			19,306	19,586
	一般財源	千円	18,190	16,280			
	事業費計(A)	千円	28,969	25,949	31,820	32,624	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	3	
	延べ業務時間	時間	384	400	500		
	人件費計(B)	千円	1,566	1,733	2,120		
トータルコスト(A)+(B)	千円	30,535	27,682	33,940			

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
総合戦略に、質の高い教育の提供に向けた取り組みが掲げられ、認定NPOとの連携・協働を軸とした推進体制の構築に向けて始動した。不登校をはじめ個別の支援が必要な児童・生徒の増加が社会的課題となっている。	H28年度より、専門的な支援を図るために、臨床心理士資格を有する者(受託者による)を配置したところである。また、高校生年代への支援体制の構築にも取り組んでいる。	○保護者 保護者間のネットワークづくりなどの取り組みを含めて評価する声をいただいている。 ○議会、学校:きめ細かい対応に対して評価する声をいただいている。 ○その他 市外から通室を希望する声をいただいている。

事務事業名	雲南市教育支援センター運営事業	所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育政策課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-----------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	個々の状態も大きく違うなかではあるが、非常に高い現状値であるためこれ以上の向上余地はない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	不登校の児童生徒の支援(通級指導)を行う市内唯一の公的施設であるため。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？				
D 公平性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある *ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	理由	他に類似の事務事業はない。	
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる			
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない			
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		事業費の大部分が委託料や施設の維持管理経費であり、現状は削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？			
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由	センターのあり方の明確化を図ることが必要であるが、受託者である認定NPOとの役割分担等を含めて、削減余地は考えられる。	
⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？				
D 公平性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由	すべての子どもたちの支援を図る施設であり、公平・公正である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
	評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	C 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
<p>H30年度から本格的に取り組む別室登校支援に加えて、家庭へのアウトリーチ事業を試行的にスタートした。また、コロナ禍においては、オンラインを活用した支援体制を構築するなどニーズに的確に対応できる体制が構築されている。</p>				

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																		
	削減	維持	増加																
成果	向上																		
	維持	●	×																
	低下	×	×																
<p>学校・保護者との信頼関係はもとより、高校生年代へのアプローチを含めた関係機関とのネットワークも構築され、事後対応としての取組は確実な成果につながっている。 他方、学校に行きづらさを感じる児童生徒は年々増加する傾向にあり、今後の不登校対応の在り方については、不登校特例校制度等も含めた幅広い検討を行う必要がある。</p>																			